東北教区報　2023年９月号
あけぼの

発行所
日本聖公会 東北教区
仙台市青葉区国分町2-13-15
TEL 022-223-2349
FAX 022-223-2387
URL https://nskk-tohoku.com/

シリーズ「東北の信徒への手紙」

今更ながら日本の教会とは

司祭　ステパノ　涌井　康福

今年の3月、秋田から福島への転任の準備でバタバタしている時に故郷（長野）に住む妹が急逝しました。いまだに合間を見て何度か往復していますが、様々な手続きのため町に出かけた時、中部教区の上田聖ミカエル及び諸天使教会の近くを通りかかりました。こちらは和風建築で知られる奈良基督教会を小さくしたような教会で、祭壇を仏像に変えたらすぐにでも仏寺として使えそうな建物です。奈良の場合は景観条例があったのでしょうが、ここの場合はどのような経緯で和風建築となったのか、今更ながら興味をそそられました。きっと何か深い理由があったのではないかと思います。「日本の教会なんだから和風で」という単純なものではないのでしょうが、「日本の教会」という視点はとても大事なことなのではないかと思うのです。それはもちろん福音の本質を変えても良いということではありません。神から受けたものをそのまま伝えていくのですが、日本という風土の中でそれをどのような器に入れたら良いのかということなのかな、などと考えますが、小さな私にはなかなか思い切った策が思い浮かんできません。

最近ある方からいただいた文章に明治期に来日した英国聖公会の宣教師の中に、日本の教会に英国型、例えば教区制などのスタイルをそのまま持ち込むことに反対した司祭がいたということが記されていました。しかし結局そうはならず、伝えた側は様々な変革を遂げているにもかかわらず、多分現在に至るまで、私たちはその時に伝えられたものを守り続けていたのかもしれません。日本聖公会では教区制改革が進められていますが、それは単に11もの教区を維持できないことに対する対処ではなく、教会そのものの変革を視点に置いてのことであることを、私たち一人ひとりも心に留めていきたいと思います。私には何ができるのか、私はどう変わることができるのかが、すべての信徒・聖職の課題なのではないでしょうか。そう書くと何か重いものを背負うような感じになってしまいますが、そのほとんどを実は背負ってくださっているイエス様のことをしっかりと見つめることが一番大事ですよね。

わたしの家はクリスチャンホームではなかったので、洗礼を受けた時に周りからは「何で西洋の神様を信じるのか」と何度も問われました。そうなんですね。多くの日本人にとってキリスト教は西洋の宗教であり、イエス様は欧米人の神様なのですね。そういわれるたびに「そうじゃない。聖書の神様は世界の神様だ。イエス様だって西洋人ではない」と反論してきましたが、自覚はしていなかったのかもしれませんが日本の教会は、そして私も、西洋的なものをアピールしてきたのかもしれません。

学校が夏休みに入ったこともあってか、このところ毎日教会見学の方が来られます。多くは旅行者の方で、いまだに朝ドラ（エール）の撮影地の教会を見てみたかったという方が多いです。地元の方も来られますが、キリスト教に関心がある、聖書のことを知りたいという方には、残念ながらまだお会いしていません。食事時にインターホンがピンポーン！と鳴ると、思わず「うわー、勘弁してよ」と本音が出てしまいますが、今日こそは良い出会いがありますようにと、あきらめずに、訪ねてくれることに感謝し、少しうどんが伸びてしまうことを残念に思いながらも、笑顔での対応を心掛けています。

（福島聖ステパノ教会牧師）

奉仕職養成グループ主催研修会
「奉仕のススメ」 part５開催

７月22日(土)に行われた第５回奉仕のススメは、定住者のいない教会の課題や展望を主題として行われた。

参加教会は13教会、参加者は38名であった。また、北海道教区から笹森田鶴主教と上平更司祭の参加があり、感謝と共にお迎えした。

発題１では涌井康福司祭から、これまで管理教会の牧会で、定住していない教会の管理の難しさや宣教の機会を逃したという経験が話された。東北教区の聖堂の多くはその地域で歴史的な価値のある建物であるため見学などに訪ねてこられる方も少なくない。そのため教会の規模に関わらず聖職者の定住の有無は教会の宣教に影響を与えることも経験上感じてきた。

発題２では、今年の４月から定住者のいない教会になった八戸聖ルカ教会から、実際にどのような課題や変化があったのか、またそれに対する対応をどのようにしているかということが話された。具体的には、み言葉の礼拝が増えたことに対しては、管理牧師から説教動画を出してもらい、礼拝の中でスクリーンに映して勧話の代わりとしていることや、防犯に関しては隣接する八戸幼稚園に協力してもらい、日中の不審な車や人などに注意してもらっているなどが話された。他の参加教会に向けては、鍵・郵送物などの管理についてや、牧師館の有効活用などについて、質問が投げかけられた。質問への返答として、隣接する幼保園の協力はもちろんだが、地域の方々への声掛けや時には協力も必要であるとした。

また、発題者からは「無牧（むぼく）」という言葉をよく耳にするが、定住はしていないけれども管理牧師がいて、丁寧に牧会はしてくださっているため、決して無牧教会ではないということも話された。

また現在、定住者のいる教会の方からは、イースターで自分たちのところは例年通りの10時30分から礼拝をしていただき、管理教会へは午後から行かれたが、無条件に定住者のいる教会が主な教会となるのではなく、互いの教会が話し合いながら協力し合いながら進めていくことが繋がりにもなり、互いに開き合う教会になると思うという意見も聞かれた。

発題２の第２セッションとして、４グループに分かれてのグループディスカッションの時間も設けられた。グループディスカッションの後、各グループの報告として、北海道教区では週報の統一化（日課や代祷の部分など）、距離のある自宅でもＷＥＢ上で礼拝参加がしやすいようにテレビの設定をしに行くなど、目から鱗のようなアイデアも紹介された。今回の奉仕のススメでは双方向且つ学びよりは分かち合いのプログラムを考えた。「定住者のいない」という後ろ向きのテーマから始まったが、結果的には前向きな展望も期待できるような良い分かち合いの時となった。

（グループメンバー　司祭　遠藤　洋介）

青森聖アンデレ教会
祝 聖堂聖別20周年

ダビデ　石場　正樹

２００３年７月５日加藤博道新主教（当時）司式により礼拝堂が聖別されてから20年の時が流れ、去る７月２日長谷川清純新主教司式による聖堂聖別20周年記念礼拝を感謝と賛美で献げました。午後１時30分から記念行事として、昨年導入されたクラシックオルガンのコンサートを開催しました。この行事に関しては、１月の堅信受領者総会において、今年は記念の年であり感謝を伝えお祝いするということをお互い確認し合い、新型コロナ感染対策を徹底して、最終的に次のような形になりました。それは奏者に仙台基督教会のセシリア竹石由美子さんをお迎えし、第１部はオルガン曲４曲、友情出演として青森の信徒でテノール歌手マタイ高橋琢司さんの独唱、第２部は、聖歌のコラール７曲という内容で、最後に聖歌82番「みつかいの」を一緒に歌い、時間は１時間でした。

関係者に案内したところ近隣の方々、幼稚園保護者、園児と卒園児たち、大館からの方もあり、礼拝堂に78人が来場されて、教会の空間にピッタリなクラシックオルガンの深くて豊かな音色を満喫しました。「教会に初めて入った。中がどうなっているのか見たかった。素敵な時間をありがとう。また素晴らしい演奏と歌声を聴かせて欲しい」という声も聞こえてきました。

改めてこのイベントに賛同し、出演してくださいました竹石由美子さん、アシスタントの寺島文恵さん、高橋琢司さんに感謝申し上げます。

追悼　ヨハネ　佐藤真実　司祭
「ヨハネ　佐藤真実司祭を偲んで」

司祭　ヤコブ　林　国秀

この度、去る６月24日に逝去されましたヨハネ佐藤真実司祭様（84歳）の「追悼文」の原稿執筆の依頼を受けました。私にとって先輩聖職、若手時代の指導司祭である同師の追悼文を認めるなど大変僭越ではありますが、お世話になりました感謝と思い出の一部を記したいと思います。

まず、１９８３年の１月、私の聖職候補生認可にあたり、当時の田崎安男教区主教から「聖養成訓練委員長の佐藤真実司祭のところへ行って挨拶してきなさい」と命じられ、八戸で初めてお会いした時のことです。準備した自己紹介、志望動機を緊張の中、語り尽くすと、ただ一言「まーず、行ってこーい（神学校に）」と言われ、面接は終了。そして百合子ママ（夫人）が「パパもあたしもラーメンが大好きなんだー。」と満面笑顔で語りかけてくださり、お昼をご馳走になりました。不思議と胸のつかえのようなものが一気に吹き飛び、迷いなく神学校に入学する準備を進められたのでした。主イエスが弟子たちを導いた時、「わたしについて来なさい」といわれたみ言葉を聴くたびに面接の時のことを思い出しては励まされ、また何でも受け止めてくださる度量の大きさに何度も救っていただきました。その後も私の最初の盛岡勤務時代には、指導司祭として司祭按手、結婚という人生の節目の時のご指導、お支えを賜わり、聖地巡礼までお連れくださったことも感謝の思いで溢れます。

次に、真実司祭様の宣教部長（当時）としての功績について触れたいと思います。毎年行われた教区修養会や青年キャンプ、十和田ファミリーキャンプは、楽しい思い出で溢れています。１９８５年夏、岩手県奥中山の修養会では、沢を辿って高い山に登り、山の上で「十戒」を唱えて戻ってくるという出エジプト体験のプログラムが秀逸で、また、中山平での修養会なども「楽しく遊んで学ぶ」をモットーに、教勢がピークの頃と重なるのですが、大勢が参加し、スタッフ、参加者を巻き込んで盛大に行われました。これも真実司祭様のリーダーシップとお人柄の賜物です。また、東北教区保育連盟会長、岩手県私立幼稚園連合会（当時）盛岡地区会長を歴任されるなど、幼児教育にも心血を注がれました。この他勤務教会でのご功績などを記すには、本紙面で足りるものではありません。真実司祭様、本当にありがとうございました。天国で大好きな百合子ママといつまでも平安にお過ごしください。

主教コラム　きのうも今日も、また

7月2日、青森聖アンデレ教会礼拝堂聖別20周年を記念し聖餐式を献げ、午後はクラシックオルガンコンサートを開催しました。コンサートでは町内会近隣の人、園児・卒園生・保護者、信徒たちが仙台基督教会オルガニスト竹石由美子さんの信仰心溢れる音色と圧倒的な音量を堪能しました。近隣の人たちが初めて聖堂内に入って喜ばれたと会話を交わせたのは何よりも大きなお恵みでした。

15日午後、山形聖ペテロ教会で米沢聖ヨハネ教会信徒も集まって、宣教に関する懇談会を主教と持ちました。財政を含めて礼拝、牧会、建物維持管理の事から山形県内の福音宣教まで広範な話題に、私たちが今後取り組んでいくものを明白にさせてもらい感謝でした。

16日、福島聖ステパノ教会巡回、涌井康福司祭牧師任命式がありました。礼拝後、相次いで見学者2組が訪ねて来られ、1組には涌井司祭が聖堂内で説明、私は信徒たちと外で他の1組夫婦と語り合いました。彼の父が埼玉県東松山聖ルカ教会の信徒で興味があり、場所を探して立ち寄ったと言います。そしてやはりＮＨＫ朝ドラ「エール」を観ていました。夫妻の自宅は川越基督教会近くで、私は立教新座中高チャプレン勤務時代、両教会で聖餐式に出ていましたからとても親近感を覚え、夫妻の旅の安全を祈りますと声をかけました。

23日、磯山聖ヨハネ教会巡回でした。真夏日の炎天下、「祈りの庭」で聖餐式を献げました。海からの潮風に割と強めに途切れなく吹き付けられて、暑さをわずかに凌げました。12年前の光景を重ね合わせて、大雨災害に見舞われた秋田聖救主教会信徒や被災者に思いを馳せ祈りました。聖堂に移動する際、東日本大震災全犠牲者の平安を祈りながら鐘を打ちますと、その音が無人の緑地公園と太平洋にいつまでも響き渡っておりました。

（教区主教）

北から南から

秋田聖救主教会

７月中旬の大雨により、秋田は大きな被害を受けました。幸い秋田聖救主教会や聖使幼稚園に目立った被害はありませんでしたが、教会関係者、幼稚園関係者のいくつかの家庭には被害が出てしまいました。突然来る自然災害に対して、人間がいかに弱いかを実感すると同時に、だからこそ常に神さまに寄り頼むと共に、与えられた知恵で自然と共存していく道を模索し続けることが大切だと思いました。引き続きお祈りください。

山形聖ペテロ教会

明治末期に建てられた礼拝堂にはトイレがなく、戦前か戦後か定かではありませんが、増築の際に設けられました。左右対称のシンメトリーの二つの玄関の片方に建て増しした関係で、大谷石の階段を上り下りする動線で、体の不自由な方にとって障壁そのものでした。

この度、宣教強化資金の融資を受け、車いすの方が安心して利用できるトイレに生まれ変わりました。感謝！

小名浜聖テモテ教会

今春、教会の駐車場を整備し、７月には教会と幼稚園の看板も綺麗でスタイリッシュなものになり、庭の整備も進めています。主日礼拝は涌井司祭と林司祭が聖餐式を行っており、その他はみ言葉の礼拝を信徒全員で役割を担い行っています。私たちの教会は、小さな群れではありますが今後もみんなで神様の御用のために奉仕させていただけるけるる恵みに感謝しております。主に感謝します。

東日本大震災被災者支援プロジェクト報告

◇水曜喫茶支援について

７月12日(水)に実施しました。スタッフを含め６名の参加でした。皆で抹茶をいただいています。各方面の皆様の差入に感謝いたします。皆さん元気にご参加いただいています。８月は23日(水)、９月は13日(水)に実施します。気軽にお茶のみ話をしていただける方を募集しています。兼ねてより計画しておりました「メモリアル広畑お茶会」は、９月15日(金)に予定しています。

◇６月24日(土)に行ったプロジェクトメンバーによる被災地訪問の「視察記」をホームページにアップしました。ご覧ください。今後は訪れる地域や遺構を見直しながら、「被災地巡りツアー」のコースを充実させていきます。参加ご希望がありましたら、どうぞお申し込みください。

◇プロジェクトの案内リーフレットは更新作業中です。

（リーダー　浅原　和裕）

常置委員会報告（第10回・７月19日）

報告事項▼主教報告：９月23日大田教区主教按手式実施予定。▼常置委員長報告：「チーム北国」進捗状況。▼主事会議報告：教区財務状況。

協議事項▼新型コロナ感染症予防策の緩和について、指針No.11の継続と徹底を確認。▼山形聖ペテロ教会緊急工事のための宣教強化資金融資を適当と認め、運用グループに答申。▼「チーム北国」に宣教協働、広報、組織、財政の各セクション設置。両教区からのメンバー増員について審議決定。▼主教座聖堂参事規定について現状に合致した見直し実施を協議、承認。▼定期教会書記長に遠藤洋介司祭、書記に赤坂聖矢氏を指名。議案準備について確認、初日夜の研修について内容を協議検討。▼主事会議の構造改革について主事と常置委員との兼任回避、信徒登用等を協議検討。▼九州北部豪雨、秋田豪雨被災への見舞金拠出を決議。

永遠の平安

アンデレ　吉田　広夫
（６月７日・仙台）
ロイス　疋田　洋子
（６月26日・青森）

９月逝去者記念聖餐式

９月６日(水)　午前10時～
於　主教座聖堂
司式・説教　長谷川清純　主教

宣教師　Miss Ellen McRae
１９２１年９月６日逝去
執事　森　録次郎
１９３４年９月10日逝去
司祭　結城　光雄
１９７３年９月10日逝去
司祭　James Chappell
１９５４年９月16日逝去
主教　コルネリオ 田崎　安男
２００９年９月22日逝去
伝道師　ルツ 高橋　菊代
１９５４年９月23日逝去
司祭　志賀　清光
１９３５年９月25日逝去
司祭　ルカ 釜蒭　東祐
２００２年９月27日逝去

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

広報グループより

この度は「教区報・ホームページについてのアンケート」に協力いただき、ありがとうございました。いただいたご回答、ご意見、ご指摘は、これまでを見直すための「きっかけ」であるとともに、これからの「励み」にもなりました。「あけぼの」とホームページが皆様に親しまれるものとなりますよう、参考にし、活かしてまいります。今後ともよろしくお願い申し上げます。アンケートの詳しいまとめは、今年度の定期教区会にてご報告いたします。

（リーダー　福士　恵美）